森林計画学会の発足を祝して “景観の優れた森林は、生産性も高い” *

大 橋 和 子**

全国のいわゆる有名林業地を旅して思うことは、どの森林も、景観的にも美しく、整然と林が続いて、見る人の心が安らぎ、清々しい気持ちになる。

代表的なのは、京都の北山杉、周山街道に立って眺める景色は、さながら、歴史を物語っている様である。

しかも、小面積施業の代表の様に、老齢林から幼齢林、その間には広葉樹が模様の様にバランスよく配置されている。

又、四国の久万林業地も、私にとっては、勉強の場であり、複層林施業のお手本を見せていただきに度々足を運んだところである。

小面積所有者の多い久万地方の林を見てみると、それぞれの施業に特色があり、山林所有者の顔を、森林を通して窺い知る事が出来る。

林業を家業として、40年、林業についての経済的な事柄は、その時代により、大変異なっている。その事については、体験的に理解出来るつもりである。

森林に対する人々の期待が、現在ほど高まっていることは、我々林業に関係している者にとっては、大変喜ばしい事であるが、何故期待されるかと、原因を究明すれば、それは、地球の温暖化であり、酸性雨、又、水資源の涵養であって、森林そのものの育成や、木材生産により、内地材の価値を認識しての、森林、林業への直接的な期待ではない。

人々が、地球上で生活する事に欠く事の出来ない森林の維持が、今ほど、危機に直面している時はないと思う。

民間林業では、経済性を第一に考える。現在、経済的に困難な、いわゆる採算にあわない森林が増えているのである。

林業は、伐採から出発するか、苗木の植付からスタートするか、そのどちらかである。いずれにしても、これからを出発点としたもの、又、現在、保育途上のものは、採算に乗りにくい。

例外として、木材生産は超長期であるから過去に於て、集約的な施業を計画的に実施して来た林分や、高齢木を所有している者は、一部の不採算林分をかかえても、全体の経営の中でプールする事は可能であるが、そのような山林所有者は全国的には少人数であろう。

其の上、私有林は、高樹齢になる林を維持する為には、3回ないし4回の相続税の洗礼を受け

* Kazuko OHASHI: In celebration of the start of the Japan Society of Forest Planning. - A forest of excellent view has high productivity

** 山林業、愛知県鳳来町大野 Ohashi Forestry, Oono, Hourai Town, Aichi 441-18

Jpn. J. For. Plann. 16 '91

る事になるので、継続は甚だ困難で、不可能に近い。

昔から林業利回りは、4%か、それ以下と、いわれていたが、現在は、もっと、シビアな数字になるであろうから、従って、業（ぎょう）としては成り立ち難い。

今後、環境としての森林の保護を第一義とするならば、森林は、社会的資産として、国の保護政策の枠の中で、健全な森林の育成を実現出来る森林計画を立てる必要性がある。

民有林では、国の決めた地方森林計画にもとづいて、それぞれ施業計画を提出し、許可をいただき施業している。

自然環境としての森林と、木材生産の場としての森林と、同じ土俵の上での施策である。よき計画は、同時に、二つの目的を満足させる事が可能であると思う。

現代は、情報化時代だといわれている。民間林業の中では、情報は非常に少ないし、まして、専門的な知識不足の私にとっては、長期間にわたらなければ結果が判明しない育林という仕事にとって、速く、正しい、情報を求める事は、非常に重要かつ必要な事柄である。

その意味からも、今回の「森林計画学会」の発足に、大いに期待し、益々のご発展を祈る次第である。